【2013年12月　茨城県金融経済概況の解説】

茨城県の景気判断を据え置きました
～茨城県経済は、持ち直しの動きが続いています～

みなさん、いつも日本銀行水戸事務所のホームページにアクセスしていただき、誠にありがとうございます。私どもでは、茨城県の金融経済情勢に関して、最新の情報を提供しております。公表されている最新の経済指標は実態としては数か月前のものですが、私どもでは公表日前日までに企業等から聴取した情報も踏まえて判断しております。どうか、ご活用ください。

お気づきになられたと思いますが、今月から茨城県金融経済概況の公表形式を改定しました。最大の変更点は、従来本文中に経済指標の計表を掲載していましたが、これをグラフにしたことです。こうすることにより、指標の動きがビジュアルに捉えやすくなることを狙っています。具体的な計数は従来同様、巻末に統計編として掲載していますので、情報量の減少は基本的にはありません。併せて、この際、統計を全般的に見直し、拡充・改善を図りましたので、詳細はこちらをご覧ください。

さて、12月5日に公表しました茨城県金融経済概況では、県内の景気情勢を「持ち直しの動きが続いている」として、先月までの判断を据え置きました。3か月連続です。基本的な構図は先月までと変わりませんが、仔細にみていくと若干の変化が窺われます。

まず、変わらない点ですが、好材料としては公共投資、雇用・所得環境が、先月までと同様、改善を続けており、全体を引っ張っています。個人消費の一部における持ち直しの動きもこれまで同様続いています。マイナス材料として設備投資が高水準だった前年対比では減少していること、輸出が低迷しているとの判断も先月までと変わりません。

変化した点は、生産が輸出の低迷や定期修繕工事もあり、減少しました。先月まで「横ばい圏内の動き」と判断していましたので、下方修正になります。また、住宅投資については減少に転じ、消費税引き上げ前の駆け込み需要が息切れしつつあることが確認されました。変化点だけをみれば「持ち直しの動き」がやや一服しつつあるようにも窺われますが、基調的な動きに変化がないかどうか、12月短観結果も含め、もう少し様子をみたいと考えています。

今年も残すところあと僅かになりました。皆様にはいろいろな機会に大変お世話になり、ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。どうかよいお年を！

2013年12月5日
日本銀行水戸事務所長
尾家　啓之